

## Z311r 楔形文字史料から見るオーロラ現象

三津間康幸（筑波大学）

アッカド語楔形文字で粘土板に書かれたアッシリア占星術レポートや『バビロン天文日誌』（以下 ADB）に記録される自然科学現象、主としてオーロラについての研究の展開を概観する。アッシリア占星術レポートは主として西暦紀元前 7 世紀にイラク北部のアッシリアや南部のバビロニアで作成され、当時両地域を支配していたアッシリア王に対し、観測された自然科学現象の占星術的な意味を説明する役割を果たした。1992 年に 567 枚の粘土板が、研究者に利用できるかたちで公表されている。その中には前 680 年代-前 650 年代に位置づけられるオーロラ様現象の記録が 3 点含まれている。ADB はバビロニアの中心都市バビロンで前 7 世紀から前 1 世紀にかけて作成され、天文、天候、バビロンを流れるユーフラテス河の水位の増減、オオムギや羊毛などの農畜産物の価格、歴史的な事件などを詳細に記録する。ADB の粘土板は大英博物館に 1500 枚ほど現存するが、これまでに公表されたのは 400 枚程度である。その中にはオーロラ様現象の記録が 9 点含まれ、そのうち 5 点については実際にオーロラを記録した可能性が高いと考えられる。講演者は 2 年間ロンドンに滞在し、未発表の ADB 粘土板のほとんどに加え、既発表の ADB 粘土板のかなりの部分も調査し、それらの写真を撮影している。このような資料を用いてオーロラをはじめとする古代の自然科学現象の記録を新たに発見していくことが、講演者の今後の課題となる。